

二本松地区納税貯蓄組合連合会長賞

大切な税・必要な税

大玉村立大玉中学校

三年黒 沢 宏 伸

夏休み中に税の作文を書くことになった時は税の事なんて何も知らないのに何を書けばいいのかわからない。面倒くさい。やりたくないと思いました。でも宿題なので、やるうと思ひ、先生からもらったパンフレットを見ていると、消費税について目に入りまし。今テレビでは、消費税を上げるか上げないかを決めようとするのを見ます。

今の日本は、約九百億円の借金があるそうです。そうなることやはり、消費税は上げなければならぬのかもしれない。でも僕は、少し不安に思ひます。その納めた税は何に使われるのかわからないからです。ただ税を上げるというのではなく、なぜなのか、何に使うのか、そうすると国はどうなるのかなどを説明して、国民全員を納得させなければならぬと思ひます。

では、税は何に使われているのでしょうか。

学校で使われている税金は、教科書、机、イス、そして、学生がいつも勉強している学校の建設費にも、税金を使っています。いつも学校の学校生活を見直すと、机に落書きをしたり、イスを乱暴に使ったりする人をよく見かけます。

もし、日本に税金というものがなかったらどうなるのでしょうか。火事が起きた時は自分達で消して、事件が起きた時は自分達で解決し、道路が壊れた時は自分達で直さなければなりません。そう考えると、税がいかに大事かがよくわかります。

自分も将来、税を納める一人の人として今からお金の使い方や、税に関する事を知っておく事が大切だと思ふようになりました。

国を支える税金を負担する私たち一人ひとりが、自らの税の使い道に関心を持ち、みんなに平等な負担と給付の関係について考えることが大切だと思ひます。

また、医療については、国や地方公共団体が税を財源として費用の負担を行う各種の公費負担制度があり、「公費負担」と「自己

負担」として、税金でまかなわれているものとそうでないものに分けられます。

このように、どこまで税金で負担すべきかを考えることが大切だと思ひます。

最後に、何のために税金があるか。それは、「国民が快適な生活ができるように」

「安全な生活ができるように」

「安全に通行できるように」

「病気の治療を受けられるように」

だと僕は思ひます。

これからも、税金を大切にし、より良い日本を作ってほしいです。

